

三浦半島カブトムシ 移動調査2012

内船俊樹*

Subsequent report on movement of a Japanese rhinoceros beetle (Coleoptera: Scarabaeidae) in the Miura Peninsula in 2012

UCHIFUNE Toshiki*

キーワード：カブトムシ, 移動, 三浦半島, 標識再捕獲法, マーキング

Key words: Japanese rhinoceros beetle, movement, Miura Peninsula, mark-recapture method

筆者は三浦半島におけるカブトムシ成虫の移動実態を明らかにするため、2009年より横須賀市における標識再捕獲法によるカブトムシ移動調査を実施している(内船, 2010; 2011; 2012)。本報は2012年に実施した同調査の記録である。調査範囲や調査方法は内船(2010)にしたがい、貼付ラベルは内船(2011)のデザイン(黒地に白字表記)を採用した。

2012年の調査は7~8月に実施し、放虫は後述の2地点(第1図)で実施した。放虫個体は88個体(オス: 55, メス: 33)に上り、横須賀市馬堀町(博物館附属馬堀自然教育園・第1図の地点1)では7月22日に53個体(オス: 40, メス: 13), 同市光の丘(水辺公園・第1図の地点2)では7月21日に35個体(オス: 15, メス: 20)を、それぞれカブトムシ成虫の採集・ラベル貼付・放虫を行った。

上記の放虫に対し、1件の発見記録が得られた(第1表)。放虫数に対する発見数の割合(再捕獲率)は1.1%であった。これは過去の調査(2009年: 5.9%, 2010年: 1.8%, 2011年: 2.8%) (内船, 2010; 2011; 2012)を下回る結果となった。さらに、今回の調査は2010年の調査と同様に、長距離移動個体(直線距離で1 km以上の移動)が記録されなかった。発見個体は、水辺公園の訪虫場所(内船, 2010)から北へ直線距離で約380 m離れた住宅街で見つかった。発見までの日数は約1ヶ月であったが、発見時既に死んでいた(第1表)。このため、正確な移動・活動期間は分からなかったが、発見者によると

外傷や腐敗はほとんど見られなかったとのことから、死後数日のものと考えられる。

本調査は多くの協力のもと実施された。水辺公園友の会および同公園を管理する横須賀都市施設公社、ならびに同公社主催の「キッズ自然教室」参加者、さらに馬堀自然教育園管理職員および博物館教室「そだててしらべる!カブトムシ」参加者には、材料提供や放虫に関して協力いただいた。情報の収集や広報にあたっては、多くの市民のほか、水辺公園友の会および自然・人文博物館職員に協力いただいた。各人および各団体に感謝申し上げる。

引用文献

内船俊樹 2010. 三浦半島カブトムシ移動調査—2009年の調査結果—. 横須賀市博研報(自然), (57): 25-30.

内船俊樹 2011. 三浦半島カブトムシ移動調査2010. 横須賀市博研報(自然), (58): 49-50.

内船俊樹 2012. 三浦半島カブトムシ移動調査2011. 横須賀市博研報(自然), (59): 31-32.



第1図 調査地域および放虫地点。図中の数字は地点を示したもので、地点1は博物館附属馬堀自然教育園(横須賀市馬堀町)、地点2は水辺公園(横須賀市光の丘)。黒矢印は移動記録。

* 横須賀市自然・人文博物館 〒238-0016 横須賀市深田台95
原稿受付 2012年12月7日 横須賀市博物館業績 第667号

第1表 放虫個体のデータ.

ラベルNo.	雌雄	発見日	発見場所	発見までの日数	直線移動距離
12-0125	メス	8月20日	横須賀市岩戸2丁目	(30日)*	380 m

*発見時に既に死んでいた(死後数日の様子)ため、移動期間としては参考値とみなした.